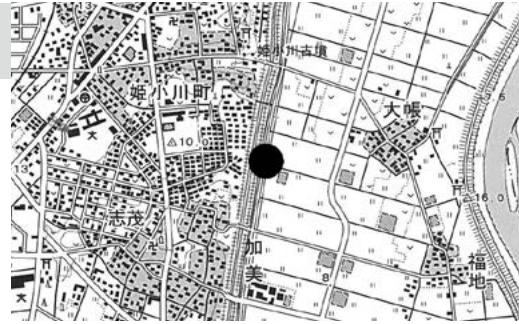


よせじま  
寄島遺跡

所在地	安城市小川町 (北緯34度54分34秒 東経137度5分45秒)
調査理由	中小河川改良事業(鹿乗川)
調査期間	平成25年11月～平成26年3月
調査面積	2,110 m <sup>2</sup>
担当者	酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

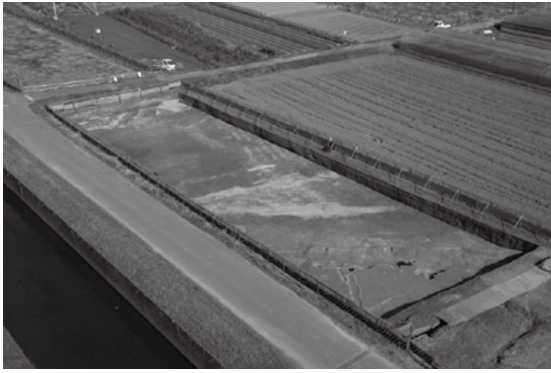
**調査の経過** 調査は中小河川改良事業(鹿乗川)に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成19年度から調査を開始し、今年度で4回目、総調査総面積は10710m<sup>2</sup>である。今年度は、昨年度調査区の北側の2区画の調査を行った。

**立地と環境** 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。現在の鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、下懸遺跡、惣作遺跡、姫下遺跡で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は7～7.5mである。昨年度までの調査で古墳時代の集落、墓域が検出されている。

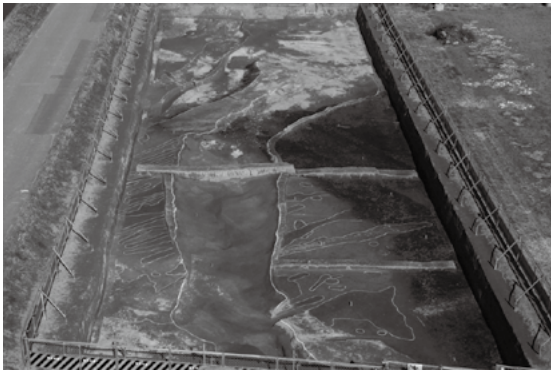
**調査の概要** これまで遺跡の南から順次調査を行い、遺跡の主体となる古墳時代前期の集落が北にどのように展開するかが今回の調査の課題であった。13A区から13B区にかけて北西から南東に走る近世以前の旧河道が検出され、古墳時代の集落が展開する沖積微高地が連続しないことが確認された。13A区の南端が河道の南岸に相当し、13B区の南部で北岸が検出され、河道の幅は約60mを測る。また、13B区南東部に北東方向から南に走る古墳時代前期以前の旧河道の一部が検出された。13B区が西岸に当たり、東岸は調査区外であるため川幅は不明である。また、13B区の北西部は河川性の堆積物が基盤面になるが、堆積時期や流れる方向は確定出来ない。上面の遺構として13A区では微高地端部に河道に平行する中世溝1条が検出された。13B区では古墳時代前期の河道に沿う微高地端部に最大幅約7mの溝と微高地上で南北に走る溝2条を検出した。下面では古墳時代前期の遺構と遺物包含層が検出された。主な遺構として13A区で竪穴建物1棟と溝が確認された。13B区では旧河道の包含層が確認され、古墳時代前期の土師器と木製品・自然木が少量出土した。また、旧河道斜面上部から微高地上で土坑、溝群と井戸1基が検出された。

**まとめ** 今年度の調査で、本遺跡の北限が確認された。しかし、古墳時代前期の遺構群の展開としては、旧河道がこの時期以降に微高地を削って流れた可能性がある。本来、微高地が存在して、この時期の集落が連続して北に広がっていたことが推測される。今後は旧河道の変遷を地質調査の成果から類推し、この時期の集落の展開を検討する必要がある。

(酒井俊彦)



13A区全景 (南西より)



13B区全景 (南より)



13B区南半 (西より)



13A区中世溝 (南東より)

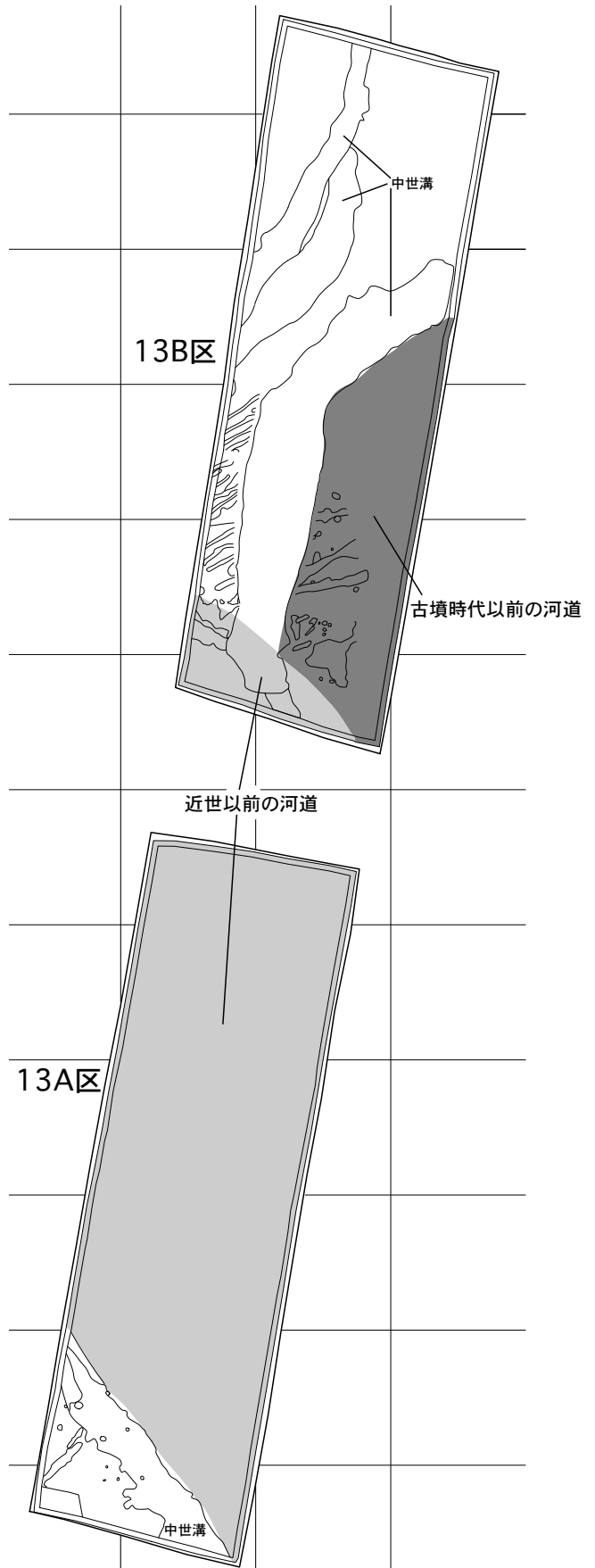


図1 遺構全体図 (1:500)